

はじめに不換制下の価値尺度機能をめぐって、現在でも金が価値尺度として機能しているという説と、金はすでに価値尺度としては機能していないという説の両説が対立している。いわゆる金廃貨論と非金廃貨論の対立である。だが、不換制下の価値尺度機能のあり方を問題にするのであれば、このような問題設定は形式的であり不毛である。不換制は現代資本主義の貨幣面での特質であり、今日の価値尺度機能のあり方には現代資本主義の特質が反映されていると考えなければならない。不換制下の価値尺度機能をめぐる議論は、多かれ少なかれ、現代資本主義論を含むものでなくてはならない。したがって問題はつぎのように設定されるべきだろう。金兌換停止によって資本主義市場経済はどう変質したのか。それは価値尺度機能のあり方にどのような変容をもたらしたのか。

- I 金廃貨論と非金廃貨論の対立一方は不換制の現実から出発することによりて基礎理論を否定し、他方は基礎理論から出発することによって現実を否定する。あるいは現実を無理に基礎理論にあわせて解釈しようとする。重要なのは基礎理論を踏まえて不換制の現実を説明することである。それぞれに含まれている難点。

#### 不換制下における価値尺度機能のあり方

不換制下の価格体系の金本位制からの連続性。一紙幣減価を貨幣名の表す金量の低下としてとらえることの意味とその問題点。

貨幣制度が金から離れたことの意味は、貨幣制度が本来金と結びついていたことの意味に照らしてはじめて明らかになる。一私的所有にもとづく経済社会の物的象徴としての金。

不換制下における価値法則のあり方の変容と価値尺度機能。一不換制下では流通外部からの経済法則にたいする侵害が行なわれ、経済法則は媒介的・間接的な形をとって貫徹する。そこに含まれているさまざまな問題。インフレーションが進行する場合と進行しない場合、過剰信用の整理が行なわれる場合と先延ばしされる場合、等々。

#### Ⅲ 不換制下における国際的・普遍的な価値尺度機能の問題点

国際的・金本位制・固定相場制・変動相場制。ドル体制と国際的な価値尺度機能。不換制下における国際的な価値法則の貫徹とその問題点。不換制下の国際的ないしは普遍的な価値尺度機能の変質。

価値尺度機能の麻痺論に含まれている一定の合理性。